

音楽科学習指導案

大阪教育大学教員養成課程 兼平佳枝

【準備】

- ・柱は五、六、七、八、十、為の弦に立て、五＝ミ、六＝ソ、七＝ラ、八＝シ、十＝ミ、為＝ラに調弦をしておく。
- ・爪有り（親指のみ）
- ・2人で1面

1. 指導内容

〔共通事項〕 音楽の縦と横との関係（旋律とオスティナートの重なり）と曲想
〔指導事項〕 (2) 器楽 ア、イ(ア)、ウ(ウ)

2. 単元名 : 旋律とオスティナートの重なりを意識して《あめこんこん》を弾こう

3. 対象学年 : 小学校第4学年

4. 教材 : 《あめこんこん》 わらべうた

5. 教材について

【音楽の背景】

《あめこんこん》は福島県のわらべうたである。雪国の子ども達は幼い頃から雪に親しんで生活している。初雪が降ると喜び、雪が積もると雪合戦や雪だるまづくり等、雪でさまざまな遊びをして雪のある生活を楽しむ。それは、雪国ではない地域においても同様であり、子ども達にとって雪遊びは楽しいものである。そのような生活経験やそこに伴う感情を想起させることで、イメージ豊かに表現することが可能になると考える。

【音楽のかたち】【音楽のなかみ】【音楽の技能】

オスティナートはイタリア語で「執拗な」という意味をもつ。音楽では、短い旋律やリズムのパターンを執拗に反復することをいう。本単元では、《あめこんこん》の旋律にオスティナートを重ねることで旋律のみの演奏とは異なる新たなイメージが生じることを経験させることができる。そして、旋律にオスティナートが重なった際のイメージを意識して《あめこんこん》を演奏する技能を身に付けさせたい。

6. 指導計画 : (全3時)


ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	○ペアで交代しながら、《あめこんこん》の音を探して弾く。 ○ペアで旋律役とオスティナート役を決めて、音を重ねる。	1
分 析	○旋律とオスティナートの重なりを知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。	2
再経験	○旋律とオスティナートの重なりを意識して《あめこんこん》の表現を工夫する。	
評 価	○リレー奏で発表する。 ○旋律とオスティナートの重なりについてのアセスメントシートを記入する。	3

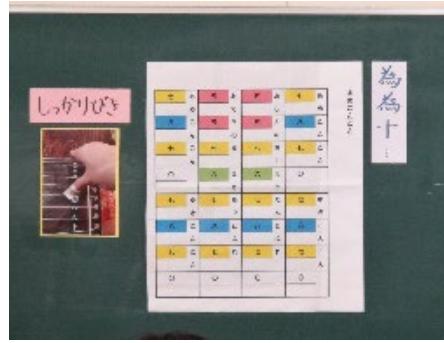
7. 単元目標・評価規準

評価の観点	単元の評価規準	具体の学習場面における評価規準
知識・技能	旋律とオスティナートの重なりについて理解し、イメージが伝わるように《あめこんこん》を弾く。	<p>★①旋律とオスティナートの重なりを意識し、それらを組み合わせてイメージが伝わるように演奏している。</p> <p>★②アセスメントシートに用語についての理解を示している。</p>
思考・判断・表現	<p>旋律とオスティナートの重なりについて知覚し、そこから生み出される特質を感受する。</p> <p>旋律とオスティナートの重なりを意識し、イメージが伝わるように表現を工夫する。</p>	<p>①旋律とオスティナートの重なりを知覚・感受している。</p> <p>②旋律とオスティナートの重なりを意識し、イメージが伝わるように工夫している。</p> <p>★③旋律とオスティナートの重なりを意識し、イメージが伝わるように工夫したことをアセスメントシートに書いている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	旋律とオスティナートの重なりに関心を持ち、意欲的に《あめこんこん》を弾く。	<p>①オスティナートを重ねて意欲的に演奏する。</p> <p>★②旋律とオスティナートの重なりに関心をもって音楽づくりに取り組んでいる。</p>

★は単元での子ども一人ひとりの最終的な評価を行うための評価規準を示している。

8. 展開

活動のねらい	子どもの活動	指導者の活動	評価
経験	ペアで交代しながら、《あめこんこん》の音を探して弾く。 ペアで旋律役とオスティナート役を決めて、音を重ねる。		
<p>■ 《あめこんこん》を歌い、旋律を大まかにとらえさせる。</p> 	<p>1. 《あめこんこん》を、動作をつけて歌う。</p> <p>T: みんなは雪が降ってきたらどんな気持ちになるかな？ これまでに雪が降ってきた時にどんな遊びをしたかな？</p> <p>C: 嬉しい。</p> <p>C: 雪合戦をした。</p> <p>T: そんな風に雪が降ってくるのを楽しみにしている福島県の子ども達が昔から歌ってきた《あめこんこん》というわらべうたがあるので、一緒に歌ってみましょう。</p> <p>T: なぜ、自分の前に雪がたくさん降ってほしいのかな？ みんななら、どう思いますか？</p> <p>C: たくさん雪合戦で遊べるから！</p>	<p>●雪についての経験を想起させ、自由に発言させる。</p> <p>●歌詞を掲示し真似て歌うように誘う。慣れてきたら拍に乗って動作もつけて一緒に歌うように促す。</p> <p>●動作の確認をするときに状況に応じてわからない歌詞がないかを確認する。</p> <p>●歌詞の内容は、子どもの生活とかかわらせて説明する。「雪国の子ども達はみんなと同じようにたくさん遊びたいから、庭や道路に出て、空を見上げながらこの歌を歌ったそうです。」</p>	
■ 《あめこんこん》を探り弾きさせる。	2. 《あめこんこん》の音を探して弾く。	●「今度は、《あめこんこん》をお箏で弾	



■「しっかり弾き」で《あめこんこん》の旋律を弾けるようにさせる。

■オスティナートの重なり気づかせる。

3. ペアで交代しながら《あめこんこん》を弾く。

4. 《あめこんこん》の旋律にオスティナートが重なった演奏に対して、気づいたことを話し合い、ペアで旋律役、オスティナート役を交代しながら重ねて演奏する。

T: いま、先生はみんなとは違う弾き方をしていたのですが、気づいた人はいますか？

C: なんか、手前の方でピンピン弾いた。

きます。」と言って、五＝ミ、六＝ソ、七＝ラ、八＝シ、十＝ミ、為＝ラに調弦した箏を配る。

●「さっき歌った《あめこんこん》の歌になるように音を探してみましょう。歌は七から始まります」と言って音探しさせる。

●子どもに確認しながら、掲示した歌詞の横に絃の数字を貼っていく。

●音探しに迷う場合があれば、音の高さを手を上下させて確認させる。

●つくった数字譜を全体で共有し、確認する。

「お箏の音楽は、昔から絃の数字を縦に並べた楽譜を使って書かれています。」

●全員で数字を歌って確認する。

●爪をつけさせ、既習内容である「しっかり弾き」を意識するように伝える。

●箏を弾いていない方の子どもには数字を歌うように促す。

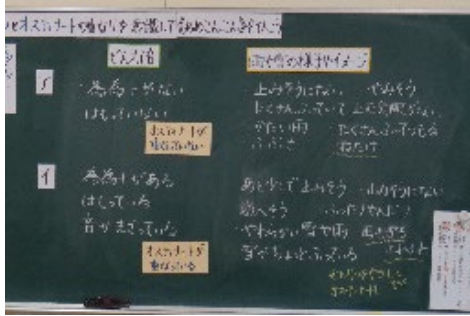
●子ども達が演奏できるようになったら、指導者がピッチカート（右手の薬指の腹で絃を上を持ち上げるように弾く）で為為十（ララミ）のオスティナートを重ねて繰り返し演奏する。

●子どもの発言をとらえて、為為十と演奏していたことを伝え、「みんなも試してみよう」と言って誘う。

主体的に学習に取り組む態度①
(観察)

		<ul style="list-style-type: none"> ●ピッチカートは右手薬指で、柱と龍角の中間をはじくように促す。 ●状況に応じて、団扇太鼓等を用いて拍をとる。
--	--	---

分析	《あめこんこん》の旋律とオスティナートの重なりを知覚・感受し、表現の工夫への手がかりを得る。		
-----------	---	--	--

<p>■旋律とオスティナートの重なりを知覚・感受させる。</p>	<p>5. (ア)と(イ)の《あめこんこん》を比較聴取し、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T: いまから(ア)と(イ)の2種類の《あめこんこん》を聴いてもらいます。それぞれ、どんな感じがしたか、どんな音だったかについて教えてください。</p> <p>C: (ア)は為為十がなくて、雪が普通に降っている感じたけど、(イ)は為為十が重なっていて、雪がふわふわ降っている感じ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に録音しておいた(ア)旋律のみの《あめこんこん》と(イ)旋律にオスティナートを重ねた《あめこんこん》の演奏を聴かせる。 ●ワークシートに記入させる。 	<p>思考・判断・表現① (ワークシート)</p>
<p>■知覚・感受した内容を共有させる。</p>	<p>6. ワークシートに書いた内容について発表し合い、イメージを広げる。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●(ア)(イ)に対する子どもの発言を、知覚したことと感受したことの対応関係がわかるように板書する。 ●(ア)は旋律だけだったのに対し、(イ)は為為十が繰り返し重なっていたこと、(イ)のように同じ旋律を繰り返すことを「オスティナート」という用語として確認し、イタリア語の「執拗な(しつこい)」という意味であることを知らせる。 	
<p>■イメージを表現するための手がかりを得させる。</p>	<p>7. イメージを意識して演奏した時に、どんなことに気を付けたかについて</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>T: 雪がふわふわ降るイメージだったら、どんな風に弾いたらいいかな?</p> <p>C: 旋律もオスティナートもやさしく弾くといいと思う。</p> <p>T: じゃあ、やさしく弾いてみましょう。</p> <p>C: (弾いたのを聴いて) ふわふわのイメージになった!</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●板書の中からピックアップし、「では、〇〇な感じを出すためには、どんな風に弾いたらいいかな?」という問いを出す。 ●クラスを旋律役、オスティナート役に分けて演奏させる。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ●状況に応じて、演奏前に工夫を出させて試してみてもいいし、演奏後にどんなことを意識して演奏したかについて発表させるのもよい。 	
再経験	旋律とオスティナートの重なりを意識して、《あめこんこん》の表現を工夫する。		
<ul style="list-style-type: none"> ■表現の工夫への手がかりを基に、自分たちのイメージに合った表現を工夫させる。 ■作品の交流を通してイメージを表現するための工夫に気づかせる。 	<p>8. オスティナートの重なりによってもったイメージが表現できるように、ペアで重ねて演奏する。</p> <p>9. 中間発表をする。</p> <p>T: ○班は、イメージと工夫を説明してから演奏してください。</p> <p>C: だんだん雪が止んでいくイメージで、だんだん遅く弾きました。♪ (演奏する)</p> <p>C: (演奏を聴いて) だんだん遅くなるだけじゃなくて、だんだん弱くなっていたので、本当に止んでいくみたいでした。</p> <p>T: 速度だけじゃなくて強弱も工夫していたのですね。拍手!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●2ペアで組み合わせさせて4人1組になり、旋律とオスティナートの役割分担をするように促す。 ●イメージを実現させる方法が思いつかないペアがいる場合は、クラスの問題として話し合う場面をつくる。 ●状況を見てオスティナート・パターンは自分たちで考えてもよいことを伝える。 ●工夫が顕著な班を1～2班抽出し、イメージを発表させてから演奏させる。 ●抽出班の発表を聴く際は、目を閉じてイメージを思い浮かべながら聴くように促す。 ●工夫されていた表現に気づかせ、状況に応じて全員でやっているように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ★主体的に学習に取り組む態度② (観察) 思考・判断・表現② (観察)
評価	リレー奏で発表する。 旋律とオスティナートの重なりについてのアセスメントシートを記入する。		
<ul style="list-style-type: none"> ■作品の交流を通して他者の作品のよさに気づかせる。 ■旋律とオスティナートの重なりについての振り返りをさせる。 	<p>10. イメージを伝えてからリレー奏で発表し、その後、演奏を聴いての感想を発表し合う。</p> <p>11. アセスメントシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●状況に応じて、団扇太鼓等を用いて拍をとる。 ●自分たちのペアが弾き終わったら交代させる。 ●ペアでイメージしたことと、そのためにどんな工夫をしたのかについて記入するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ★知識・技能① (演奏) ★思考・判断・表現③ (アセスメントシート)

		<p>●事前に録音しておいた（ア）旋律のみの《たこたこあがれ》と（イ）旋律にオスティナートを重ねた《たこたこあがれ》の演奏を聴かせる。</p>	<p>★知識・技能②（アセスメントシート）</p>
--	--	---	---------------------------

◎本学習指導案は、以下の学習指導案を参考にしている。

小島律子（2015）「プログラムⅡ－3 旋律にオスティナートを重ねる」『義務教育 9 年間の和楽器合奏プログラム—生成の原理の立場から—』黎明書房，pp.36-37

小島律子監修（2018）「十五夜さんのもちつき」『三訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン—』廣済堂あかつき，pp.80-83

参考文献

佐藤志美子（1996）「あめこんこん」『心育てのわらべうた』ひとなる書房，p.14

懸田弘調（1991）「雨こんこ雪こんこ」『福島のわらべ歌 日本わらべ歌全集 4 下』柳原書店，pp.154-155

歌詞

《あめこんこん》
あめこんこん ゆきこんこん
おらへのまえさ たんとふれ
おてらのまえさ ちつとふれ
あめこんこん ゆきこんこん

楽譜

あ	お	お	あ
め	て	ら	め
こ	ら	へ	こ
ん	の	の	ん
こ	ま	ま	こ
ん	—	—	ん
	え	え	
	さ	さ	
ゆ	ち	た	ゆ
き	っ	ん	き
こ	と	と	こ
ん	ふ	ふ	ん
こ	れ	れ	こ
ん			ん

七	あ め	五	お て	五	お ら	七	あ め
八	こ ん	五	ら の	五	へ の	八	こ ん
七	こ ん	七	ま ー	七	ま ー	七	こ ん
〇		六	え さ	六	え さ	〇	
七	ゆ き	七	ち っ	七	た ん	七	ゆ き
八	こ ん	八	と ふ	八	と ふ	八	こ ん
七	こ ん	七	れ	七	れ	七	こ ん
〇		〇		〇		〇	

実際に子どもが記入したワークシート

ワークシート
せんりつと(オスティナート)の重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう

4年 5組 番名前 _____

	どんな音から?	雨や雪の様子やイメージ
(ア)	<p>為為+がなくて、し、かり びきだけです。</p> <p>オスティナートが 垂、ていな</p>	<p>雪がパラパラとたくさん ふってみんながあそぶ 様子。</p>
(イ)	<p>為為+があて、し、か りびきがある。</p> <p>オスティ ナートが垂 ている。</p>	<p>雨と雷の雪がしゅしゅにうら てきている。(ふぶきの様子)</p>

ワークシート
せんりつと(オスティナート)の重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう

4年 1組 番名前 _____

	どんな音から?	雨や雪の様子やイメージ
(ア)	<p>アハ あめこんこんのあめがたないうる</p> <p>ハア</p>	<p>おしりしている。</p>
(イ)	<p>あめこんこんのきいかに1のきいかに</p> <p>ている。</p> <p>二人で</p>	<p>大きいゆきと小さいゆきが、いっしょ いっている。</p>

実際に子どもが記入したアセスメントシート

アセスメントシート
旋律とオスティナートの重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう

4年 4月 21日 田名 名 姓

■自分たちのペアでイメージした雪や雨がふっている様子と、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

わたしは (だんだんやむ)
雪や雨がふっている様子をあらわすために、
(おそくしていったり小さくしていく)
という工夫しました。

■今から2しゅるいの《たこたこあがれ》をききます。
あっていると思う方に○をつけましょう。
また、それぞれのたこの様子やイメージを書きましょう。

①の《たこたこあがれ》	②の《たこたこあがれ》
オスティナートが重なっている	<input checked="" type="radio"/> オスティナートが重なっている
<input checked="" type="radio"/> オスティナートが重なっていない	オスティナートが重なっていない
たこの様子やイメージ ・もう上がっている。	たこの様子やイメージ ・正月ぼ。 ・だんだん上がっていく

アセスメントシート
旋律とオスティナートの重なりを意しきして《あめこんこん》をひこう

4年 2組 4番 田名 名 姓

■自分たちのペアでイメージした雪や雨がふっている様子と、そのためにどんな工夫をしたかを書きましょう。

わたしは (強い雪や弱い雪)
雪や雨がふっている様子をあらわすために、
(強くしたり弱くしたり)
という工夫しました。

■今から2しゅるいの《たこたこあがれ》をききます。
あっていると思う方に○をつけましょう。
また、それぞれのたこの様子やイメージを書きましょう。

①の《たこたこあがれ》	②の《たこたこあがれ》
オスティナートが重なっている	<input checked="" type="radio"/> オスティナートが重なっている
<input checked="" type="radio"/> オスティナートが重なっていない	オスティナートが重なっていない
たこの様子やイメージ オスティナートが重なっているから、二つだけあがっている、ふらに聞える	たこの様子やイメージ オスティナートが重なっているから、いっぱいあがっている、ふらに聞える。